



アサヒビールと大山崎山荘

街 ing では、5月21日(火)に大山崎山荘美術館を訪ねます。この美術館はイギリス風の山荘である本館と約30年前に建てられた「地中館」、その他の建物から構成されています。美術館本館である「大山崎山荘」は、もとは関西の実業家・加賀正太郎(1888-1954、67歳で没)の別荘として、大正から昭和にかけて建設されました。

加賀正太郎は、加賀証券(現在の三菱UFJ証券)や茨木カンツリー倶楽部の設立にもかかわった実業家です。ニッカウヰスキーの創業にも参画し、晩年には同社の株を深い親交があった朝日麦酒株式会社(現アサヒグループホールディングス株式会社)初代社長・山本爲三郎に託しました。

1954年(昭和29年)に加賀正太郎が亡くなり、ついで加賀夫人がこの世を去ると、1967年に大山崎山荘は加賀家の手を離れることになりました。幾度かの転売ののち、建物の老朽化が進んだこともあり、1989年(平成元年)には山荘をとり壊し、大規模マンションを建設する計画が浮上していました。しかし、地元有志の方を中心に保存運動が展開されました。京都府や大山崎町は加賀家と縁のあるアサヒビールに山荘の引き取りを要請しますが、当時のアサヒビールは苦難の時代の真ただ中でした。経済の東京一極集中を読み切れず、西日本を中心の営業政策が裏目にでていたのです。シェアは10%を切り後発のサントリーにも抜かれそうになっていました。この状況を打破したのがその後のアサヒを救うことになるスーパードライです。1987年(昭和62年)に発売されたスーパードライは「キレのある辛口ビール」を謳い文句にして世に送り出されました。若い世代を中心に大きな支持を受け、発売と同時に爆発的な売れ行きを記録したのです。

業績の回復したアサヒビールは行政と連携をとりながら、山荘を復元し美術館として公開することを目指します。そして1996年(平成8年)、アサヒグループ大山崎山荘美術館は、歴史ゆたかな土地に建つ貴重な近代建築、同時代の先端をいった美術品、そして国際的に活躍する建築家・安藤忠雄が手がけた現代建築の三つを擁して開館しました。開館9年を迎えた2005年には来館者が100万人を、2017年には200万人を越えました。特色あるコレクションと建築、豊かな自然とともに楽しむことのできる美術館として、多くの人に親しまれています。

しっとり桜と百年洋食のランチ 京都植物園を訪ねて

実施日 2024年4月3日(水)

参加者 街ing 4名 阪田 長谷川 牧 松岡 研修1名 パソコン3名 計8名

当日の様子

街ingでは毎年お花見を実施。昨年は近江八幡で水郷の桜を楽しみました。本年の舞台は京都植物園。毎年この時期は大勢の人が植物園に桜を求めて押しかけるのですが、当日は大雨の天気予報。実際には適度の雨量にとどまりましたが、見物客はまばら。ガイドさんの解説を聴きながら、園内の桜をゆっくりとめどることができました。昼食は老舗の洋食レストラン「東洋亭」。このレストランは事前予約不可の人気店で、通常は1時間以上待たされるのですが、20分程度の待ち時間ですみました。雨もまたよしの思い出に残る1日となりました。

牧さんからのコメント

生きた植物の博物館を堪能いただけましたでしょうか。京都を代表する景色である植物園西側の桜並木も通りたかったのですが、雨で中止としました。次の機会にぜひ鑑賞していただきたいです。

参加者の感想

- ガイドさんのおかげで、植物の見どころがよく理解できました。
- 借景に比叡山、くすのき並木、チューリップ圧巻でした。
- 雨の中を参加した甲斐がありました。植物の解説も分かりやすかったです。
- 東洋亭ランチ、名物の丸ごとトマトはここでしか食べられません。ほんとうにおいしかった。

ガイドの山本信一さんです。聞きとりやすい山本節に魅了されました。解説の一例、漢字で書くと「双葉葵」園内ではフタバアオイと表記しています。徳川の家紋「三つ葉葵」はデザインで実際には存在しません。よ〜く分かりました。





京都植物園は 1924 年(大正 13 年)に開園、2024 年に 100 周年を迎えました。12,000 種類の植物を栽培しており国内でもトップクラスです。桜を背景に記念写真、園内の撮影スポットです。この時だけ雨が降りました。

京都植物園の温室です。この温室の外観は池に浮かんだ金閣寺のイメージ。460 メートルにもおよぶ順路に従って進むと、次々と景観が変わり熱帯の様々な植物を観察できました。



昼食会場「キャピタル東洋亭」の内部。席は 50 席で 14 時を過ぎても満員。外国人も大勢見られました。ビーフシチューのかかったハンバーグステーキが看板メニューです。おいしいとしか言いようのない味でした。

“阪神間モダニズム”の残照<夙川流域>散策

令和6年6月14日(金)

明治維新後いち早く産業化が進んだ大阪は、経済力・人口共に東京を凌駕し、“東洋のマンチェスター”と称される。いわゆる“大大阪”時代の到来です。

1900年代初頭以降、自然豊かな居住環境を求めて、大阪の多くの富裕層や中産階級層が、阪神間の郊外住宅地に移り住むようになる。中でも、清流の夙川と豊かな宮水に恵まれた西宮区域は、当初は別荘地でしたが、後に電鉄会社による大規模な沿線住宅地開発により、日本でも有数の良好な住宅地となる。

夙川流域には、現在も質の高い住宅と併せて多くの美術館や画廊が点在し、これまでに多くの一流芸術家（岩谷時子・谷崎潤一郎・遠藤周作・野坂昭如・小松左京・村上春樹・貴志康一など）を輩出してきた。

1900年代初めから戦前までの間に、阪神間で西欧文化の薫陶を受けた新しい近代芸術とライフスタイルは、後に“阪神間モダニズム”と称されるようになる。

“阪神間モダニズム”の特徴は、その「まちづくり」における先進的試みにより、西洋的建築様式と阪神地域の豊かな自然・文化・美意識などが融合して生まれた独自の建築スタイルにあり、他に類のない美しい都市景観を創り上げ、また、その優れた街並みに触発されて、多くの芸術・文化作品が生まれたことにある。

中でも、当時の日本では画期的な河川沿いの“パークウェイ（都市公園機能を持つ緑樹帯と遊歩道）”として1937年に竣工した“夙川公園”が、西宮の都市景観形成に果たしてきた役割は顕著であり、春季には桜の名所として知られる清流と緑が織り成す街並みは、今後も多くの創作活動の“インスピレーション”となり続けることだろう。

水先案内人：牧 彰（会員）



◇参集地：阪急「茨木市」駅8時50分

◇順 路：「茨木市」9：04⇒「苦楽園口」～夙川公園～10：30 旧山本家住宅（登録文化財）・浦家住宅（外観のみ）～夙川公園～夙川カトリック教会～夙川公園～西宮神社～13：00 白鹿クラシックス～BT「交通公園」⇒阪神「西宮」・JR「西宮」

◇昼の宴：“白鹿クラシックス” 西宮市鞍掛町7-7 ☎0798-35-0001

彩り旬野菜と天麩羅・十割蕎麦コース 3,300円（税込み）

ゆとりある寛ぎの空間で、四季の移ろいを感じる料理を！“白鹿”でしか味わえない特別なひとときとして、ご存分にご堪能ください。

（白鹿クラシックス HP より）

◇入館料：旧山本家住宅 200円・

◇定 員：約15名

◇その他：歩行距離約4km（会員には、会より1000円の補助あり。）

◇連絡先：「街ing いばらき」代表・阪田浩（080-1436-9881） 申込締切り5月14日（火）

Tel & Fax / 072-627-3480 E-mail : ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp

※本会行事は自由参加です。不測の事故・傷害などは、自己責任でご対応ください。

<阪神間モダニズム>

明治後期から昭和戦前期に掛けて、阪神間で生まれた近代的な芸術・文化・生活様式とその時代状況を指す。

中でも、西洋文化に多大な影響を受けた建築が随所に存在している。これは阪急・阪神電鉄の開業が発端で、大阪の富裕層たちが阪神間に別荘を建てたことに始まる。1995年の阪神淡路大震災によってその多くが失われ、芦屋川・夙川流域に今なおその痕跡を残している。

<夙川公園>

松と桜とが織り成す独特の景観を呈している夙川河川敷緑地は、河川全体が都市公園として整備されている。(総延長約4km、面積約18ha)

「さくら名所100選(1990年)」、「日本の歴史公園100選(2006年)」に選ばれる。

優れた歴史的・文化的資源を有し、地域の活性化に貢献している歴史公園の魅力を国内外に発信すると共に、歴史的・文化的資源の保存・継承・活用、観光復興、活力に満ちた地域社会の実現などに供している。

<旧山本家住宅・浦家住宅>

阪神間モダニズム終末期の1938年築造。阪神間に根付いていた建築文化の粋を集めたような和洋折衷の館。設計は関西近代建築の父と評される武田五一の弟子として、茶室研究でも知られる岡田孝男。

研ぎ澄まされた感性と良質の素材、そして秀逸な技術がこの建物の価値を厳かに語っている。

旧山本家住宅の道路の真向かいに、緑濃い緩やかな傾斜を活かした愛らしい浦太郎邸が佇んでいる。設計した吉阪隆正は、ル・コルビュジェのアトリエで研鑽を積んだ異色の建築家。

四角い箱が浮き上がる構造、色鮮やかな格子窓、遊び心あるピロティに、コルビュジェ建築を彷彿させられる。

<夙川カトリック教会>

1932年築造。重厚なネオ・クラシック様式の尖塔が美しい教会で、地域のランドマークを形成している。此処で作家・遠藤周作が洗礼を受けたことはよく知られている。今でも、阪神間の若者たちの結婚式が行われることが多いとか! 正午には、夙川の街に祈りの鐘(カリヨン)が高らかに鳴り響く。

<西宮神社>

全国に3500社ほどあるえびす社の総本宮。3連春日造という珍しい構造の本殿ですが、残念なことに今年の11月末まで修復工事のため見ることはできません。

また、この神社が「西宮」という地名の由来となりました。毎年1月10日早朝に行われる「福男選び」はお馴染みです。

<白鹿クラシックス>

木漏れ陽のある酒蔵のお店で、宴の気分を体験! 「花と料理と日本酒」と、酒蔵直営店ならではのパイロット・ショップ。ここでしか味わえない生酒や、搾りたて原酒の量り売りなど。日本酒と共に愉しめる食材、菓子の特選品や、奈良漬・酒粕なども販売。

(白鹿クラシックスHPより)

<旧辰馬喜十郎邸>

1888年築造の擬洋風建築。酒造家・辰馬喜十郎は自邸を新築する際に、大工・山下某に「神戸居留地の英国領事館を模す」ように命じたと伝わる。

列柱を配したベランダや両開き鎧戸など、北野町異人館同様のコロニアル・スタイルの特徴を有す。



附近見取り図



安威川ダム完成&左岸道路の開通

杉田 宗三

安威川ダムは大阪府が2014年にダム本体工事に着手してから10年かけてこのほど完成し、3月20(水)に吉村知事の出席のもと現地で完成式典が行われました。

これによりダム堤上の歩道を通して大門寺側から対岸の高槻市側まで行くことができます。



◆安威川ダム堤上の歩道 正面の建物は大門寺の庫裏と本堂の屋根◆

また、ダムの左岸道路(高槻市側)も3月25日(月)に開通しました。これにより下流側の桑原大橋と上流の車作橋を経由して安威川ダム周辺を車で一周することが出来るようになりました。



後は、茨木市が進めている「ダムパークいばきた」の完成を待つだけです。(本年4月以降に順次)

家庭菜園の楽しみ

清野 征昭

ソフトランディングを考え定年から週3日の仕事をしていましたが、65才を期に完全退職をと思っていました。丁度家庭菜園をやらないかとの誘いがあり、始めて15年になります。

大門寺の貸農園「SKYFARM」で、安威川ダム近くで阿武山を望み気持ちの良い高台にあります。今ここに約10m×1mの畝4本（約45㎡）を借りています。年間数十種類の野菜を作り、少しは自給自足の足しになっているようです。最も大事にしているのは

安心安全で美味しくということで、無農薬、有機肥料を使い、オーガニックを目指しています。又健康のバロメーターとして耕運機を使わず鍬、鋤、スコップの人力で頑張っています。

この貸農園は14人が借りており、年を重ねると共に借り手が変わるとは言え、栽培状況・方法等と共に他愛無い世間話で盛り上がり、悠々自適の人には情報交換の良い場所になっています。

最初2本の畝を借りましたが、よく作り・食べるトマト、豆類、ナス等は数年連作を避けないといけませんので、毎年収穫しようとするともっと広い場所が必要となり、10年前4本に増やしました。サツマイモ、タマネギ、キュウリ等のように連作可能であれば良いのですが、作る野菜の場所を毎年回しながら確保しなければなりません。何処に何を植えたか思い出せず中々考えるのは難しい作業で苦労しています。良い野菜とは野菜そのものの味がし、長持ちもします。孫たちは買ってきた野菜は食べなくとも喜んで食べてくれています。

費用的に収支はトントンと思っています。借地料、肥料、農機具、種、苗等の費用合計と、作った野菜をスーパー等で買ったとしての費用合計を、何度か計算し比較してみました。しかし最も高いはずの人件費を計算外としていますので当然かもしれませんが、プラス要因として体力作り、健康作りに多に貢献しています。又美味しさ、安全の面では買ってくる野菜とは比較になりません。

退職後の沢山ある自由時間を考えたとき、屋外ですることと、屋内ですることを持つべきと考えましたが、今では外に出て家庭菜園で過ごす時間が多くなり趣味と実益以上の存在になりました。屋内ですることがまだ見つかりません。



右：中生タマネギ
左：スナップエンドウ・ウスイエンドウ。奥のネットにプロッコリー。



右：芽を出し始めたジャガイモ。
奥がナバナ
左：モロッコエンドウを植える予定。奥にソラマメ。

次回のイベント

街歩き 5月21日(火) 大山崎当日散策 11時30分JR「山崎」駅集合 17時頃解散

—— 次回『街ing いばらき』例会のご案内 ——

- 日 時： 令和6年5月9日(木) 14:00~16:00
場 所： 川本本店 茨木市上泉町6-29
内 容： 1. 4月3日(水)京都植物園の振り返り
2. 5月21日(火)の大山崎散策について
3. 6月14日(金)の西宮散策 他



『街ingいばらき』とは？

茨木のまちづくりを考える市民グループです。といってもあまり硬いことではなく、月一回の例会や年5回程度の街歩きを行っています。

参加資格は問いません。入会に関心のある方は、お問い合わせください。

とりあえずのご見学や、イベントの単発参加も歓迎します。

入会金 1,000円 会費 年間2,000円(一か月170円)



« 編集後記 »

- 京都植物園でのお花見は無事終了しました。事故なく楽しめて何よりでした。危険は日常生活のどこにでも潜んでいます。どこが危ないか危険予知の意識で事故を防ぎ続けたいものです。
- 次回のイベントは5月21日(火)大山崎散策です。14名の参加を予定しています。
- 街ingの行事は任意・自由参加です。事故・傷害などについては、自己責任で対応ください。街ingでは事故に対して、一切の責任を負いません。

« 編集・発行 »

阪田 浩 〒567-0881 茨木市上中条一丁目10-22

Tel/Fax 072-627-3480 e-mail: ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp

街ing ホームページ : <http://wwa.machiing-ibaraki.com/>

ホームページは杉田さんが作成されています。ときどきはのぞいてみてください。

2024年4月現在での訪問者は10,190 <前月比20の増加> となっています。